MORNING DISPATCH

# 2026-10-19

## Anthropic、株式5%を公益基金に拠出へ

## 〈知見〉Claude Code、レビューを何層にも重ねる

## 〈知見〉Harness²、AIの道具と手順を試して改良

注目3件

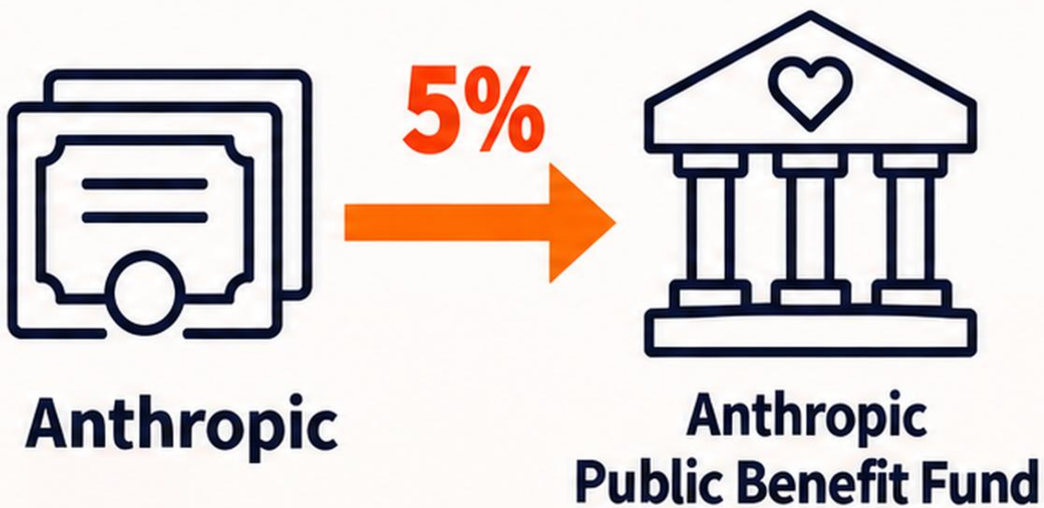


TEKION Group

# Anthropic、株式5%を公益基金に拠出へ

**Anthropicは株主承認を条件に、株式の5%を新設するAnthropic Public Benefit Fundへ拠出すると発表しました。**

- 最初の5%拠出には株主の承認が必要
- 企業価値50%増ごとに取締役会が2%追加を判断
- 保有株をロビー活動や政治献金に使わない



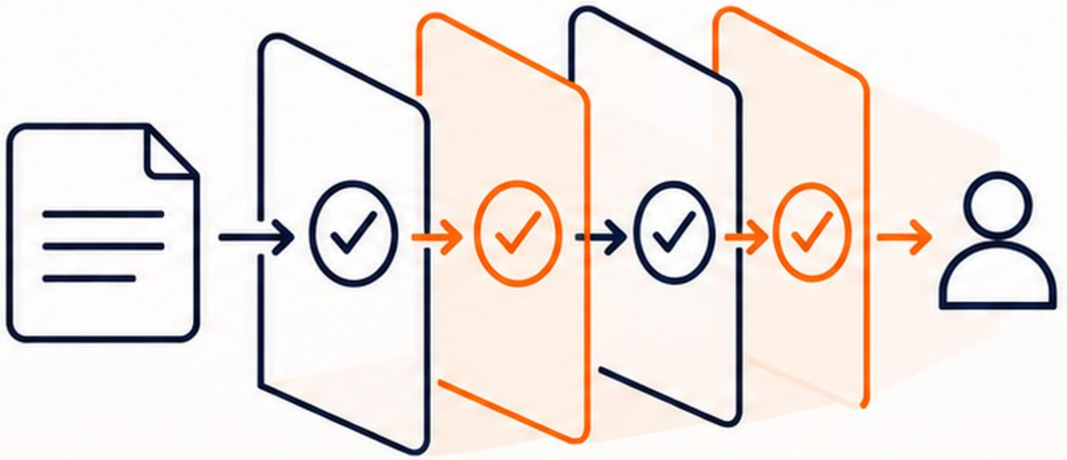

**AIによる成長の利益を社会へどう戻すかを、株式の仕組みで示した例です。**

anthropic.com

# Claude Code、レビューを何層にも重ねる

Claude Codeチームの解説では、PRを出す前にAIがテストなどを実行し、別の文脈で差分を確認します。

- テストやビルドの実行結果を提出させる
- AIとセキュリティの指摘は修正か理由付きで解決
- 危険度に応じて人の承認は0・1・2人



**AIが書く量が増えたら、確認する手段と責任の所在も整える必要があります。**

# 〈知見〉Harness²、AIの道具と手順を試して改良

Harness²は、モデルの重みを固定したまま、プロンプトやメモリ、スキルなど周辺の仕組みを改良する研究用フレームワークです。

- モデル本体を追加学習せず周辺の8要素を編集
- 変更案を出す→同じ課題で試す→有効な変更を合成
- 教訓をライブラリに残し次の改良に利用

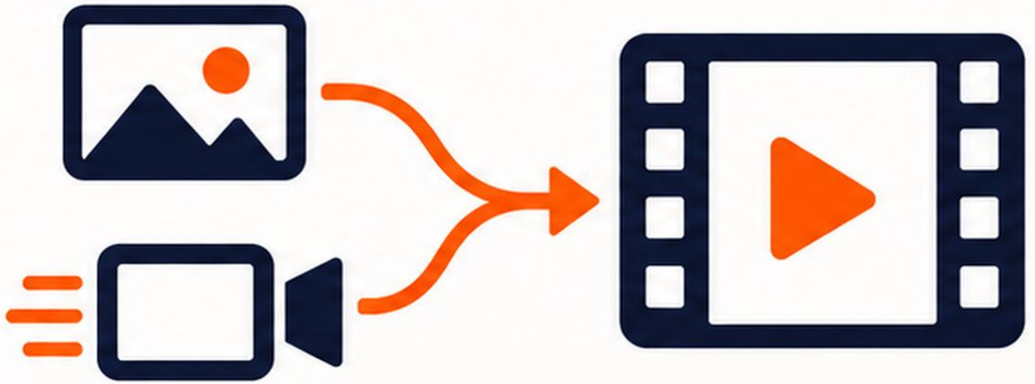


**スキルや指示書の改善を、実行結果で比べて残す考え方が参考になります。**

# 〈知見〉Kling 4.0、参照素材で映像を組み立てる

Kling 4.0の公式ガイドは、画像・動画・被写体などを組み合わせる参照機能と、最大10枚のキーフレームによる演出を説明しています。

- 参照素材は合計15点まで。種類ごとの上限も適用
- 画像は外見、動画は動きや構図の手がかりに使う
- 最大10枚のキーフレームで場面の要所を指定



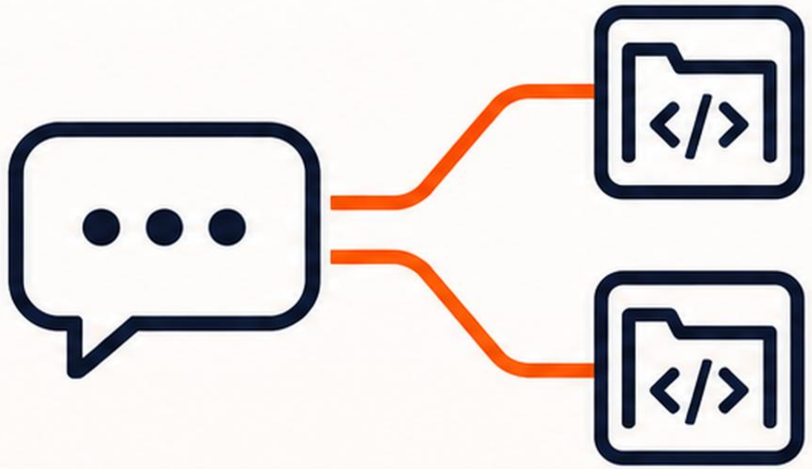
**人物の外見とカメラの動きを別の参照素材で伝えられます。**

kling.ai

# 〈知見〉GitHub、会話から複数リポジトリを調べる

GitHubのSlack・Teams連携では、一つの会話から複数のリポジトリを扱えます。

- 同じ会話のままリポジトリを切り替える
- 会話の内容から課題や修正PRを作成できる
- フロントとバックエンドをまたいで調査できる



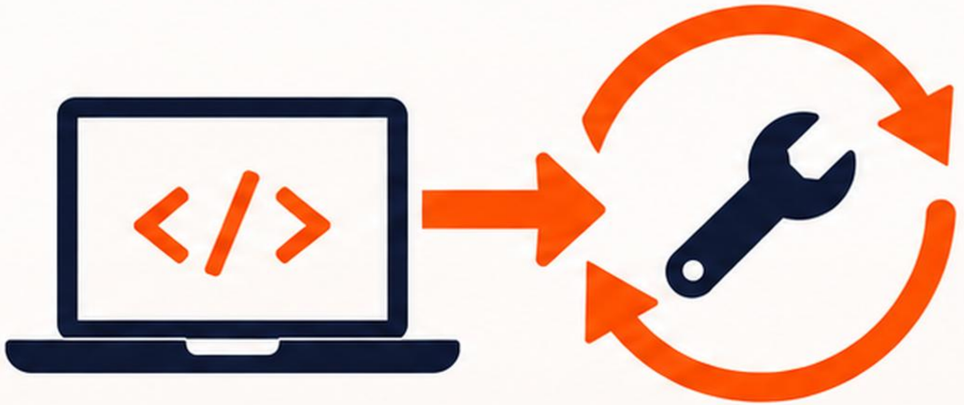
チャット上の相談を、そのまま課題の整理や調査へ進める使い方です。

github.blog

# 〈知見〉AIで内製する範囲は、保守まで含めて決める

この記事は、AIで実装が安くなってもSaaSや外注の利点が残る理由を、取引と契約の経済学から考えています。

- 自社固有の知識、変更頻度、外部との調整費を比較
- AIで変更は速くなるが、保守の責任は移転しない
- 汎用サービスには分業と規模の利点が残る



**作れるかに加え、誰が直し続けるかまで含めた判断材料になります。**

# 本日のトピック一覧

1. Anthropic、株式5%を公益基金に拠出へ
2. 〈知見〉Claude Code、レビューを何層にも重ねる
3. 〈知見〉Harness²、AIの道具と手順を試して改良
4. 〈知見〉Kling 4.0、参照素材で映像を組み立てる
5. 〈知見〉GitHub、会話から複数リポジトリを調べる
6. 〈知見〉AIで内製する範囲は、保守まで含めて決める